

小学生の 音楽

5

指導者用デジタル教科書（教材） 音声テキスト

本資料は「指導者用デジタル教科書（教材）」に収録されている映像資料の音声をテキストにしたものです。本教材に関連した資料を作成される際の参考として、ご活用ください。なお、音声解説の無い映像資料は、一部割愛しております。

目次

P. 11	歌声	2
P. 17	短調の音階と長調の音階	2
P. 22, 23	弦楽器	3
	バイオリン	3
	ビオラ	3
	チェロ	3
	コントラバス	3
P. 24	ト音記号とヘ音記号	4
P. 25	パートの重ね方	4
P. 30~33	打楽器でリズムアンサンブル	5
	学習活動 1	5
	学習活動 3	5
	学習活動 5	5
	学習活動 6	5

P. 30, 31	楽器の例	6
	こだいこ 小太鼓	6
	クラベス	6
	トライアングル	6
	カスタネット	6
	タンブリン	6
	マラカス	6
	すず	7
	ウッドブロック	7
	ギロ	7
	サスペンデッドシンバル	7
	カバサ	7
	ボンゴ	8
	コンガ	8
	カウベル	8
	アゴゴ	8

P. 11 歌声

「すてきな一歩」の始めの部分は、せんりつの動きが下がっていきます。音が下がっていくときは、こんな感じになりやすいですね。

せんりつの動きが下がっていくときは、声が上のほうに向かっていくような感じで、息の流れや、ひびきの位置に、気を付けて歌っていくといいですね。

P. 17 短調の音階と長調の音階

これは、短調の音階です。「小さな約束」は、短調の音階でつくられています。では、きいてみましょう。

音にはそれぞれ、「イ」、「ロ」、「ハ」、「ニ」のような、名前がついています。これを「音名」といいます。短調の音階が「イ音」から始まっている場合、それを「イ短調」とよびます。

みなさんは、長調の音階を勉強したことを、覚えていますか？

長調の音階が「ハ音」から始まっている場合、それを「ハ長調」とよびます。

イ短調とハ長調の音をけんばんでひいて、それぞれの感じのちがいをくらべてみましょう。

P. 22, 23 弦楽器

バイオリン

これは、バイオリンです。

ビオラ

これは、ビオラです。

チェロ

これは、チェロです。

コントラバス

これは、コントラバスです。

P. 24 ト音記号とヘ音記号

ト音記号の楽譜がくふにある低い音には、五線の下に加線がたくさんついていて、読みにくいですね。この楽譜がくふをヘ音記号の楽譜がくふで表すと、どうなるでしょうか。

加線が少なくなって、見やすくなりましたね。ト音記号の楽譜がくふで低い音を表そうとすると、加線が多くなってしまいますが、そういうときには、ヘ音記号の楽譜がくふを使うと便利です。

P. 25 パートの重ね方

これから、「リボンのおどり」のパートの重ね方を工夫した例を、二通り演奏えんそうします。音やひびきの感じに気をつけながらきいて、実際に演奏じっさい えんそうするときの参考にしましょう。まず、例1を聞いてみましょう。

1回ごとに、ひびきが変化するように、工夫されていましたね。では、例2を聞いてみましょう。終わりに向かって、だんだん盛り上がっていく重ね方をしていましたね。

P. 30～33 打楽器でリズムアンサンブル

学習活動 1

最初に、いろいろな楽器を鳴らして、音の^{とくちょう たし}特徴を確かめます。楽器の^{ざいしつ}材質や、音のひびきなどに気をつけながら、1 から 3 のリズムを打ってみましょう。

学習活動 3

次に、ひびきの組み合わせを^{たし}確かめながら、1 から 3 のリズムを^{えんそう}重ねて演奏して、受け持つ楽器を決めましょう。

「ぼくたちは、いろいろな^{ざいしつ}材質の楽器を組み合わせました。」

受け持つリズムを入れかえると、ひびきの感じが変わります。楽器の組み合わせや鳴らし方を、工夫してみましょう。

学習活動 5

3 人で^{えんそう}重ねて演奏したものを、きいてみましょう。

学習活動 6

3 人が選んだ楽器とリズムを使って、音楽の仕組みを使いながら、自分たちのリズムアンサンブルをつくります。どこを工夫したのでしょうか。

「楽器をふやして行って、だんだん集まってくるイメージにしました。そして 3 人いっしょに重ねて打つリズムを、くり返すことにしました。」

「友だちどうして、おしゃべりするようなイメージにしました。」

「そして、音色の組み合わせを楽しめるように、5 回目と 6 回目の組み合わせを、もう一度くり返しました。」

「9 回目からは楽器をへらして行って、終わりのふんいきを出すようにしました。」

それではつくったアンサンブルをきいてみましょう。

P. 30, 31 楽器の例

小太鼓

これは、小太鼓です。ばちは、このあたりを軽くにぎるように持って、ばちの重さを使って、やわらかく、ふり下ろすようにして打ちます。また、打つ場所によって、音が変わります。中心では低い音が出て、外側にいくにつれて、音は高くなります。きれいな音を出すときは、このあたりを打ちましょう。楽器の横に付いている、このスイッチを動かすと、ひびき線が、鼓面にくっついたり、はなれたりします。そうすることで、音色が変わります。

クラバス

これは、クラバスです。かたい2本の木を打ち合わせて、音を出します。手を丸くして、その上に軽くのせ、真ん中あたりを打ちます。それでは、演奏します。

トライアングル

これは、トライアングルです。トライアングルは、このように持って、このぼうで音を出します。このように打ったり（～♪）、このように細かく打ったりします。音を止めたいときは、トライアングルをこのように持って、止めます。

カスタネット

これは、カスタネットです。カスタネットは、人さし指にひもを通して、このように持ちます。手のひらを上に向けて、カスタネットのはじのほうを、このように打ちます。

タンブリン

これは、タンブリンです。あなに指を入れないように持ちます。タンブリンの真ん中を、このように打ちます。

マラカス

これは、マラカスです。軽くふり下ろして、音を出します。それでは、演奏します。

すず

これは、すずです。すずは、このように持ちます。手くびを打ったり（～♪）、細かくふったりして、^{えんそう}演奏します。

ウッドブロック

これは、ウッドブロックです。ばちで打って音を出します。

右と左で音の感じがちがいますね。

ギロ

これは、ギロです。このぼうを、このように持ち、こすって音を出します。それでは、^{えんそう}します。

サスペンデッドシンバル

これは、サスペンデッドシンバルです。シンバルをスタンドに固定して^{えんそう}演奏します。ばちによって、いろいろな種類の音を出すことができます。^{こだいこ}小太鼓のばちで打つと、こんな音がします。打つ場所によっても、音が変わります。

毛糸まきのばちでたたくと、こんな音になります。

ばちの種類や打つ位置を変えると、こんなにたくさんの音を出すことができます。自分の気に入った音をさがしてみましよう。

カバサ

これは、カバサです。左手の手のひらに楽器をのせ、右手で持ち手の部分を軽くにぎって、このように、左や右に回して、音を出します。

強く回すと、アクセントをつけることができます。

ボンゴ

これは、ボンゴです。大ききのちがう2つの太鼓が、対になっています。いすにすわって、両足ではさむように構かまえますが、ここではスタンドを使った打ち方を、しょうかいします。左側に小さいほうが、右側に大きいほうが来るように置きます。ひびかせて打つ方法と、ひびきを止めて打つ方法で、音を鳴らしてみます。きいてください。

ひびきのちがいが、分かりますか？

コンガ

これは、コンガです。2台1組で使われますが、1台だけ、または3台～5台で使われることもあります。

カウベル

これは、カウベルです。楽器の細くなっている部分の半分あたりを、左手で、軽くにぎるようにして持ち、右手で持ったばちで、打って鳴らします。打つ場所によって、音色が変わります。きいてください。

それでは、いろいろなリズムで打ってみます。

アゴゴ

これは、アゴゴです。小さいほうのベルが、親指側にくるようにして持ちます。右手に持ったばちで、ベルのこのあたりを打って、鳴らします。

左手をにぎって、ベルを打ち合わせて音を出すこともできます。それでは、いろいろなリズムで打ってみます。